

タキソノミーテーブル

学科・専攻【 健康栄養学科 】 科目【 公衆栄養活動論 】

タキソノミーテーブル（教育目標の分類体系：タキソノミー）

科目名 公衆栄養活動論 （ 2025 年 7 月 7 日作成）

氏名 板屋 智子

No.1

（〇〇する 力がある） 内容 事実、概念、 手続き、メタ認知	想起する	理解する	応用する	分析する	評価する	創造する
	（再認、再生）	解釈、例示、分類、推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織 結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画 できる、汎化
栄養疫学 ・ 栄養疫学の概要 ・ 暴露情報としての食事摂取量		健康や疾病と栄養との関係を明らかにするために、食事摂取量の把握の重要性について説明することができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
食事摂取量の測定方法 ・ 食事記録法 ・ 食物摂取頻度調査法など ・ 生化学的指標		それぞれの食事調査法の概要やその特徴、長所・短所について説明ができる 生化学的指標と食事摂取量との関連について説明ができる			次回の小テストで 6 割以上取る	
食事摂取量の評価方法（食事摂取基準） ・ 食事摂取基準の概要		食事摂取基準の法的根拠や概要、基準に基づいたエネルギー・栄養素の過			次回の小テストで 6 割以上取る	

・食事摂取基準による評価方法		不足等について、指標を用いて説明ができる。				
食事摂取量の評価方法 ・エネルギー調整 ・データ解析		エネルギー調整の重要性が説明できる。 密度法・残差法の計算が説明できる。	密度法、残差法を用いて練習問題を解くことができる		次回の小テストで 6 割以上取る	
公衆栄養マネジメント ・地域診断の意義と目的 ・マネジメントの考え方 ・プリシード・プロシードモデル		地域診断の重要性や手順が説明できる。 PDCA サイクル、プリシード・プロシードモデルに従って整理し説明ができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
公衆栄養アセスメントの目的と方法 ・アセスメントの目的と方法 ・地域診断の方法 ・食事摂取基準の地域集団への活用 ・各種調査の種類と活用		地域や対象の実態を把握・分析するためにまずアセスメントが必要であることが説明できる。 アセスメントについて、どのような手順でどんな情報を把握すればよいかを説明できる。 食事摂取基準を用いたアセスメントや食事計画について述べることができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
既存資料活用の方法と留意点 ・情報源としての既存資料の活用		既存調査資料の概要や調査内容について説明がで			次回の小テストで 6 割以上取る	

		きるとともに、必要な情報がどの資料に掲載されているかを述べることができる。				
公衆栄養プログラムの目標設定 ・ アセスメント結果からの状況把握 ・ 改善課題の抽出 ・ 課題に基づく改善目標の設定とポイント		地域の改善課題から、目標の設定方法や優先度について述べるができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
公衆栄養プログラムの計画、実施、評価方法 ・ 運営面・政策面のアセスメント ・ 計画策定 ・ 住民参加と多機関連携 ・ 評価の意義と方法・実際		設定した目標を運営や政策の面からアセスメントを行う重要性を説明できる。 多職種・多機関等関係者それぞれの役割と、公衆栄養プログラムへの関わり方について説明することができる。 プログラムの評価の方法について、説明ができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
地域特性に対応したプログラムの展開（健康づくり、食育） ・ 国や地域の健康づくり対策 ・ 食育政策		国の健康づくり対策・食育政策について述べることも、自身の出身県の政策について			次回の小テストで 6 割以上取る	

		て参照し説明することができる。				
地域特性に対応したプログラムの展開（介護予防、在宅療養、介護支援、地域包括ケアシステム） 高齢期のプログラム展開		国の介護予防政策から、公衆栄養プログラムの展開について説明することができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
地域特性に対応したプログラムの展開（危機管理、地域栄養ケア） ・健康危機管理の現状、目的 ・関係指針 ・食支援の実際		健康危機管理の意義と、災害時の公衆栄養活動や食支援についてフェーズごとに説明ができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
食環境整備のためのプログラムの展開 ・食物・食情報へのアクセスと食環境整備 ・栄養成分の表示の活用 ・特別用途食品等の活用 ・「健康な食事」の普及啓発		公衆栄養プログラムにおける食環境整備の展開について説明ができ、健康無関心層を含めた公衆栄養活動の重要性について説明することができる。			次回の小テストで 6 割以上取る	
地域集団の特性別プログラムの展開（ライフステージ別） ・妊娠期・授乳期・新生児期・乳幼児期のプログラム展開 ・成長期・成人期のプログラム展開		ライフステージ別に行われる公衆栄養プログラムについて説明ができる。			定期試験で 6 割以上取る	

地域集団の特性別プログラムの展開 (生活習慣病ハイリスク集団) ・ 特定健診・ 特定保健指導 ・ 糖尿病重症化予防プログラム		生活習慣病ハイリスク集団に対して行われるプログラム、特に特定健診・特定保健指導について、法的根拠や健診→指導への流れについて述べることができる。 糖尿病重症化予防プログラムが公衆栄養プログラムの中で行われる理由について述べることができる。	練習問題を使って、特定保健指導の階層化ができる。		定期試験で 6 割以上取る	
--	--	---	---------------------------------	--	----------------------	--